2009年11月26日～29日
岩手県山岳協会、登山普及部主催

# 九州鹿児島県名峰の旅 開聞岳 韓国岳 高千穂峰

平成２１年１１月２６日（木）参加者全員（１２名）快晴のもと、花巻空港より途中乗継し九州は鹿児島へと向かった。雪の北アルプス、南アルプスも上空より見ることも出来、南国の山へ思いをはせた。初日の宿泊先である指宿へ向かう途中、知覧特攻平和会館を見学する。一度は訪れる価値のある所か。

１１月２７日（金）７時３０分宿を出発、予想気温２２℃快晴に近い、移動中に見る開聞岳は見事に円錐形の山、らせん状にほぼ一周して上る山である。８時１７分駐車場より出発、登山道に入り始めると道は鬱蒼とした林の中、快晴のもと風は無く、３合目で温度調整をし変わりばえしない道は、緩やかに高度を上げて行く。９時２０分５合目で小休止、少々景色が望めるが６～７合目も相変わらずの道である。特に遅れる人もなく８～９合目と進むも周りの木々は低くなるが展望は無い。頂上直下付近でやっと展望が開ける。１１時頂上着、我々１２名でも狭い頂上であり、他の団体の声も聞こえたので記念写真を撮り下山する。登山道は１人が通れる位の広さ、すれ違いや岩場でのストック使用などで予定より１時間遅れの１３時５０分駐車場着となる。
今日の下山の様子から韓国岳を縦走すると時間がかかりすぎると判断し、ピストンに計画を変更する旨をみんなに伝える。

１１月２８日（土）７時１５分宿を出発、本日も快晴２０分蔵のバス移動で韓国岳の登山口である、えびの高原着、７時５０分登山開始。標高１，２００ｍ空気がひんやり、息がやや白い。整備された道を２～３合目と高度を上げる。展望が開け多くの火口が出現、火山地帯であることが分かる。ゆっくりしたペースで進む。昨日よりも楽だとの声が聞こえ、左右に大きな火口を見ながら９時２５分頂上着。“どうしてこの山で迷うのだろう”と思いもよぎる。南東側に午後に登る高千穂峰も見えだす。
９時４５分下山開始、韓国からの登山者ともすれ違い１１時登山口に到着、２０分のバス移動中に昼食をとり、高千穂峰登山口着。
下山に自信がないとの申し出た２名には車に待機してもらい、１１時４５分登山開始。間もなく石段が２０分位続く、移動で休めた足と食後とで体が馴染まない。列が伸び道は上に真っすぐ続く、岩手山４～５合目のようなガレ場を其々のペースで登る。
１２時４５分御鉢に到着、ガスの中でこの辺も岩手山の御鉢を歩いている感じ。ガスの切れ目から左にさらに高い山魂が見え隠れする。やや下って３０分の登り返し、年の割（？）には皆よく歩く。
１３時２５分頂上着、参拝記念写真を撮り、１３時４５分下山開始、急坂なガレ場を無事下り、１５時３０分駐車場着。待機していた２名と合流し、霧島神社を参拝して１７時３０分鹿児島に着く。

１１月２９日（日）空港１３時集合とし、各々グループで自由行動とし予定通り１８時１０分花巻空港着現地解散となった。
全行程怪我やバテタ人もなく無事登山行動を終えることが出来た。
３日目韓国岳を縦走組とピストン組に分ける話も出たが、全員ピストンにしたことで余裕が持てたことも良かったことと、全日程よい天気に恵まれたことが何よりだったと思った。

中村　桂悦　記